

【大久保委員】 私は、長崎県住宅供給公社について、2～3点質問します。

平成16年の住宅供給公社破綻以来、私も非常に気になって見ているわけでありまして。この報告によれば、特定調停成立後、12年間連続で経常利益を出しているということでありまして、当時、特定調停に反対をした立場で言えば、成立してよかったのかなと思うわけでありまして。

平成27年度の決算も、いわゆる分譲収入が減少したものの、1億5,000万円の利益を出しているということでありまして、これをもう少し、どういったところで経常利益が出ているのか、補足説明をしていただいてよろしいでしょうか。

【亀山住宅課長】 住宅供給公社の状況でございますが、平成27年度の決算は、経常利益が1億5,000万円ということで、引き続き黒字決算ということになっております。

諫早西部団地につきましては、まず、東-1地区を売り出したんですけれども、170区画程度、民間と一緒に売り出したわけですが、こちらもほぼ完売いたしまして、現在、東-2地区について販売をしているところでございます。

今後は、先ほど説明いたしましたとおり、商業用地ということで売却を予定いたしておりますので、通常業務とあわせて、宅地分譲、土地分譲、あわせて再建を順調に進めていきたいと考えているところでございます。

【大久保委員】 これは多分、賃貸住宅も非常に高い入居率があるというふうに書いてありますので、そこらあたり住民のニーズが、今の説明だと分譲も順調だし、賃貸のほうも非常に入居率が高いということで、分譲であれ賃貸であれ、非常にいい状況だというようなことであります

が、間違いはないですね。賃貸というのは公営住宅ですね。

【亀山住宅課長】 公社住宅といたしまして、住宅供給公社が賃貸住宅を運営している部分もございます。それから、指定管理ということで、県営住宅等の管理業務を受託し、指定管理者として実施している分もございまして、そちらにつきましても、再建上適正に仕事を進めているという状況でございます。

【大久保委員】 開発をしたものですから、分譲の部分でも、賃貸のほうは恐らく、ずっと高い入居率があるでしょうから、分譲の部分でぜひ、私どももしっかりPRをして、売れるように頑張りたいと思いますが、私の印象だと、この西部台の第1工区は非常に、比較的いい住宅だったような、いいというか、価格もそれなりにする住宅街だったのかなという気がしますけれども、第2工区の東-1、東-2というのは大体どれぐらいのグレードの住宅を販売というような感じでおられるのか、お尋ねしたいと思います。

【亀山住宅課長】 東-2地区につきましてご説明いたしますと、土地の面積といたしましては、二百数十、240とか、230とか、260とかございまして、販売価格といたしましては1,100万円から1,600万円台とか、1,800万円とか、場所によって違いますけれども、品質としては高品質な街を目指しております、今後の販売活動を続けていきたいと考えております。

【大久保委員】 品質としては高品質で、価格は非常に、そう高くもないというのであれば売れるでしょうから、しっかり我々も応援をしたいと思います。

真ん中に、「西-1商業」と書いてありますけれども、3ヘクタールの土地で比較的広い土

地だと思いますが、これは今後のスケジュール的にはどのような感じで公募していくような形になりますか。

【亀山住宅課長】こちらにつきましては、年内に公告、入札を行いまして、契約をできるだけ早くと考えております。商業地といたしまして、用途地域といたしましては近隣商業地域でございますので、地域の方々の利便性向上ということで、そういう狙いを持って販売していきたいと考えているところでございます。

【大久保委員】年内にということ、あと半年ぐらいありますけれども、早い時期に応募をかけられるのかなと思いますけれども、今言われた、用途地域ということですので、これはまさに都市計画上の調整区域とか、あるいは農振でいうところの規制というのとはかからないわけですね。そういう意味では、比較的、応募をかけたら手を挙げて契約をしたいというようなところが出てくる、どういう感触でおられますか。たくさん来るような感触を持っておられますか。

【亀山住宅課長】近隣商業地域といいまして、近隣の住民が日用品の買い物をする店舗等の業務の利便の増進を図る地域という用途地域でございますが、こちらは団地内外の皆様方の利便性向上に資するよというということで、こちらの販売につきましてはこれからなんですけれども、問い合わせも複数受けているということでございますので、我々としても、スムーズに分譲が進むよというと考えております。

【大久保委員】複数の問い合わせがあるということでもありますけれども、ぜひ期待をしながら待ちたいというふうに思います。

これはもう当然、諫早市のほうにもいろんなやりとりというか、情報交換はされているんで

すよね。

【亀山住宅課長】地元諫早市とは、これまでも常に連携を図るという意味で、打ち合わせ等協議を重ねてきておりますので、いよいよ販売ということになります際にも連携をとって進めていきたいと考えております。

【大久保委員】ぜひよろしくお願ひしたいと思ひます。

もう一点、同じ諫早に關係をして、県立総合運動公園陸上競技場のネーミングライツ・パートナーについてということでもありますけれども、これは今年ですか、2月から3月にかけて1者から応募があったということで、その応募者についていろいろ、優先交渉者として選定をしているということでもありますけれども、競技場はどんな状況になりそうですか。

【藤田都市計画課長】今の協議内容ですけれども、現在、愛称の付与期間とか、愛称を表示する看板の設置とか変更、そういうものを協議しております、協定書の締結に向けた内容について、最終の協議を行っている状況であります。

【大久保委員】これは、応募をかけた時のもくろみというか、結果は1者しかなかったということでもありますけれども、正直、どんなですか。当てが外れたと思われたのか、たくさん応募があると思われたのか、あるいは金額の問題等々、今、部内でどういふふうな感触をお持ちでしょうか。

【藤田都市計画課長】今回、募集としましては2回目になります。1回目は1者応募がありましたけれども、その時は会社の都合ということと辞退されました。今回、2回目の応募でまた1者と。前回は1者、今回も1者ということで、いろいろ考えられるんですけれども、今までの命名

権料がどうなのかとか、そこら辺の料金がどうなのか、そこは検討すべきところがあると思うんですけども、今回初めてのネーミングライツということで、我々としては、1者であっても、今回よかったのかなと思っております。

今後、別のところでも引き続きやっていくためには、もう少し検証しながら募集をしていく必要があるとは考えております。